

事業総点検の結果と今後の財政の見通し

広報くき9月号でお知らせした「久喜市の財政の立て直し（久喜市財政緊急対策・再建宣言）」にあたり、全事業をゼロベースで見直す事業総点検に取り組みましたので、その結果についてお知らせします。

また、事業総点検の結果を踏まえ、令和8年10月に改訂した久喜市中期財政計画に基づき、財政の見通しについてお知らせします。

問い合わせ

事業総点検について 企画政策課行政管理係（内線 2281・2285）

財政の見通しについて 財政課財政係（内線 2421～2428）

事業総点検の結果について

事業総点検は、単なる歳出削減ではなく、厳しい財政状況であっても、市民の暮らしに近い予算を確保すること、さらには、職員の業務負担を軽減し、働きやすい職場環境をつくることを目的に取り組みました。

全ての事業を対象に、事業の必要性やコストに対する効果の視点に基づき、廃止や縮小、延期を含めた見直しについて検討を進め、方針を決定しました。このたびの事業総点検の結果は、令和9年度当初予算編成等に反映していきます。

事業総点検の詳細は、市ホームページをご覧ください。



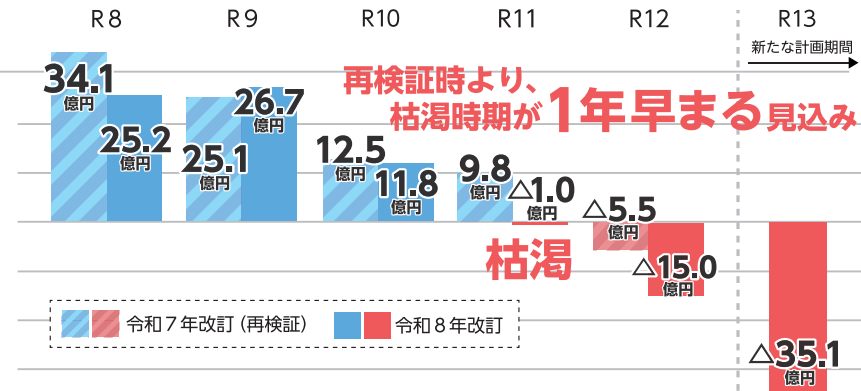
財政の見通しについて

市の貯金（財政調整基金）の見通し

財政緊急対策・再建宣言発出の際の再検証結果と比べて、

残高の枯渇時期が1年早まる

ものと推計しています。

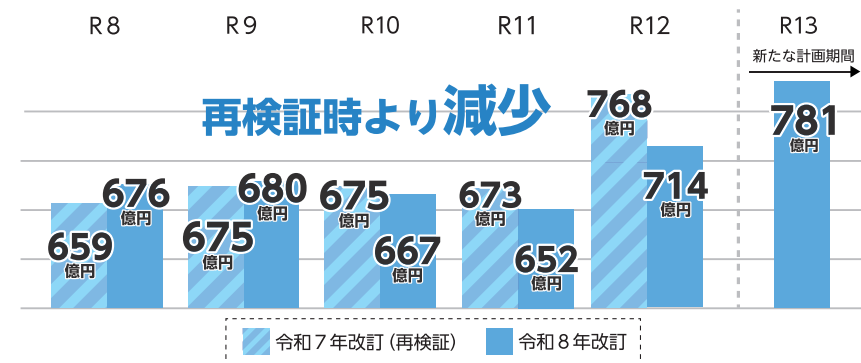


市の借金（市債）の見通し

大型事業の実施時期を見直したことにより、再検証結果と比べて、

残高は減る形で推移する

ものと推計しています。



財政の見通しが厳しくなる主な要因

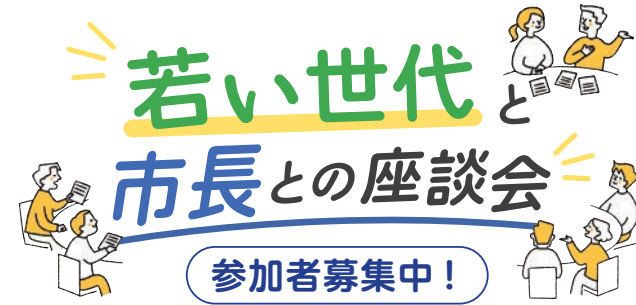
- 新ごみ処理施設、余熱利用施設および本多静六記念公園

施設名	区分	当初契約金額	当初契約からの増額見込み
新ごみ処理施設	整備費	約 276.8 億円	約 59.9 億円
	運営費(20年)	約 145.2 億円	約 31.7 億円
余熱利用施設および本多静六記念公園	割賦手数料(20年)	約 4.1 億円	約 11.9 億円
	運営費(20年)	約 47.4 億円	約 4.4 億円
合計		約 473.5 億円	約 107.9 億円

- 下水道事業における汚水処理に係る流域下水道維持管理負担金

毎年度最大**約 9.1 億円**の増（埼玉県への支払い）

中期財政計画の詳細は、市ホームページをご覧ください。



市長と将来を担う若い世代の直接の対話を通じて、久喜市のまちづくりについて意見を交換し合い、市政に反映することを目的とした座談会を開催します！

久喜市ファミリー・サポート・センター

Hug・くむ・久喜フェスタ

～みつけよう！たのしい うれしい子育て時間～

日時 12月5日(土) 10時～12時

場所 桜田コミュニティセンター

クリスマスにちなんだゲームや手作りコーナー、ワークショップなどを開催。クリスマスプレゼントもあります。

※詳細は市ホームページをご覧ください。

対 6カ月～小学生とその保護者

問 同センター ☎29-1900



日時 12月19日(土) 14時～15時30分

対象 市内在住・在勤・在学の16～25歳程度の方

場 市役所 会議室棟 第1～3会議室

定 10人程度（申込順）

申 11月4日(水)～19日(木)までに、電子申請で申し込み

問 市民生活課自治振興係（内線2651）



令和9年オープンガーデンKUKI ガーデナー（庭主）募集

丹精込めてお手入れしている庭や花壇を皆さんに公開しませんか？



開催期間 令和9年4月24日(土)～5月16日(日)

※期間内の希望した日に公開いただけます。

対 ・自ら管理している市内の花壇または庭を公開できる方
・住所や庭等の所在、氏名（ハンドルネーム可）、庭の写真を公開できる方

※詳細は久喜市観光協会ホームページをご覧ください。

申問 令和9年1月29日(金)（当日消印有効）までに、直接・郵送・FAX・メールで、（一社）久喜市観光協会（〒346-0005 本町5-10-48／☎31-9178／✉kuki_kanko@drive.ocn.ne.jp／☎21-8632）へ

連載 久喜歴史だより（第178回）

林学博士の妻 本多鈴子



晩年の本多鈴子

久喜市菖蒲地区が生んだ偉人、本多静六博士の名は久喜市だけではなく埼玉県内外に広く知られているところですが、その妻、本多鈴子についてはご存じでしょうか。実は彼女もまた類まれなる才能の持ち主でした。

元治元年（1864）に本多家の一人娘として生まれた鈴子は、伯母を介して知り合った宣教師から英語を学び、14歳のころには、外交官夫人の通訳を務めるほどの英才ぶりを発揮します。また、明治時代唯一の女子のための学校であり、後にお茶の水女子大学附属高等学校となる官立の東京女学校に入学し、優秀な成績を修め、首席で卒業しました。

明治14年（1881）17歳の時、後の海軍軍医総監高木兼寛が女性に近代医学を修得する能力があるかどうか試すために、自身の開設した成医会講習所後の東京慈恵会、

医科大学の2名の女学生の内に抜てきされ、医学を学ぶことになりました。その後、苦学の末、24歳の時に医術開業試験に見事合格を果たし、日本で4番目の女医となりました。翌年、折原静六後の本多静六博士を婿に迎え、静六がドイツへ留学した後は、自宅に診療所を開業し、その傍らで慈恵大学婦人科にも勤め、同看護婦養成所の講師となり、さらに横浜フェリス女学院で衛生学の講義を行うなど活躍しました。

明治26年（1893）静六の帰国後、鈴子は新たに診療所を開きましたが、家事や育児に専念するため、明治30年頃、診療所を閉鎖しました。家庭の中での鈴子は、多数の門下生の世話、親族間の交際、雑事の処理などを一人で担い、毎晩こどもを寝かしつけた後は、静六を手伝い、原稿の清書、講義案の整理、英文の翻訳、手紙の代筆を引き受けるなど、大正10年（1921）に57歳で亡くなるまで、まさに静六の半身として過ごしました。

鈴子は幼少のころからその才能を発揮し、日本の医学史に名を残す人物でありながら、夫を支え、家庭を支え続けたのです。
問 文化振興課文化財・歴史資料係（☎内線362）